

明和町文化財年報

—令和 4 年度—

令和 6 年（2024）3 月

三重県多気郡明和町



明和町指定無形民俗文化財 「上村のシメナワ日待ち」



国登録有形文化財「乾家住宅門及び塀」



国登録有形文化財「澄野家住宅主屋」

<例 言>

- 本書は、三重県多気郡明和町における令和4年度の文化財保護業務に関する調査成果等の概要について報告するものである。記載内容の中心は文化財係の業務であるが、観光係の業務内容の中で関係性の高いものも含まれている。
- 本書の作成は、斎宮跡・文化観光課文化財係の味噌井拓志が行った。
- 本書に用いた座標は世界測地系に基づく。
- 土層の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖』に掲った。
- 年月日の表記について、令和4年度内であれば基本的に月日のみで表記している。

<目 次>

第1章 組織と業務	1	4. 貸出・資料提供	
1. 組織		第6章 その他の文化財・日本遺産など	23
2. 事務分掌		1. 建造物	
第2章 指定文化財・登録文化財	2	2. 有形文化財	
1. 明和町の指定文化財		3. 無形民俗文化財等	
2. 明和町文化財保護審議会		4. 寄贈・寄託	
3. 高塚1号墳 専門調査会		第7章 学校教育	30
4. 展出関係、修繕		1. 出前授業	
5. 指定に関わる調査など		2. 地域学習交流事業	
6. 新たな指定文化財・登録文化財		3. 副読本検討会	
第3章 史跡	14	4. その他	
<史跡斎宮跡>		第8章 講座など普及啓発活動、その他	32
1-1. 現状変更許可申請		1. 地域文化財総合活用推進事業	
1-2. 発掘調査		2. 講座・イベントなど	
2. 史跡斎宮跡保存活用計画		3. 刊行物	
3. 活用		4. 聞い合わせ対応、資料調査対応など	
第4章 天然記念物	16	5. 文化財保護関係団体などの活動	
斎宮のハナショウブ群落		6. 関連新聞記事一覧	
第5章 埋蔵文化財	17	附編	39
1. 周知の埋蔵文化財包蔵地における発掘届出		1. 指定文化財一覧	
2. 主要調査の概要		2. 各種委員会	
3. 企画展「竹川、金剛坂の古代の暮らし」		3. 事業	

第1章 組織と業務

1. 組織

明和町の文化財保護に関する業務について、令和4年度は下記の体制で行った。

斎宮跡・文化観光課（町長部局）

課長：日置 加奈子

・文化財係

（事務担当） 係長：河村 尚紀 職員：中西 渉

（発掘調査担当） 係長：乾 哲也（文化財技師） 職員：味噌井 拓志（文化財技師）

会計年度任用職員：1名

発掘調査作業員：14名（※登録）

発掘調査整理作業員：3名

斎宮のハナショウブ群落・坂本古墳公園管理作業員：16名（※登録）

・観光係

観光係長：河村 尚紀（兼） 職員：室岡 伸英、上村 優平

2. 事務分掌

斎宮跡・文化観光課

- (ア) 文化財の保存、活用及び管理に関すること
- (イ) 観光及び特産品の振興に関すること
- (ウ) 歴史文化観光のまちづくりに関すること

(文化財係)

- (ア) 指定文化財に関すること
- (イ) 文化財の保存活用に関すること
- (ウ) いつきのみや歴史体験館に関すること
- (エ) 史跡公園の管理に関すること
- (オ) 保存活用計画に関すること
- (カ) 日本遺産に関すること
- (キ) その他文化財に関すること

(観光係)

- (ア) 観光事業の振興に関すること
- (イ) 観光関係団体に関すること
- (ウ) 歴史的風致維持向上計画に係る事業推進に関すること
- (エ) 特産品の販路開拓に関すること
- (オ) 観光DMOに関すること
- (カ) 民泊に関すること
- (キ) その他文化観光まちづくりに関すること

第2章 指定文化財・登録文化財

1. 明和町の指定文化財

指定件数

令和5年3月31日現在

区分	有形							無形	記念物		合計
	建造物	絵画	書跡	彫刻	工芸品	古文書	考古資料		史跡	天然記念物	
国				1			1		2	1	5
県		2	2		4	3	9		1		21
町	2	1		9	1	4	1	9	5		32
合計	2	3	2	10	5	7	11	9	8	1	58

*詳細は巻末の附編を参照

2. 明和町文化財保護審議会（委員名簿は附編参照）

- ・令和4年度第1回明和町文化財保護審議会

【日時】：令和4年7月22日

【場所】：明和町中央公民館

【出席】：7名 次席：1名

<議題>

1. 委員の任命について
2. 正副会長の選任について
3. 建造物の国登録有形文化財に向けての取組みについて
4. 指定文化財候補の報告について
5. その他



第1回明和町文化財保護審議会

- ・令和4年度 第2回明和町文化財保護審議会

【日時】：令和5年2月17日 【場所】：明和町中央公民館 【出席】：8名

<議題>

1. 指定文化財の諮問について
2. 高塚1号墳の専門調査会について
3. 史跡斎宮跡保存活用計画の策定について
4. その他

3. 高塚1号墳 専門調査会（委員名簿は附編参照）

・令和4年度

明和町文化財保護審議会専門調査会（高塚1号墳）

【日時】：令和5年2月8日

【場所】：明和町中央公民館 【出席】5名

<議題>

1. 会長の選任について
2. 高塚1号墳の評価について
3. 指定の妥当性について



明和町文化財保護審議会専門調査会

4. 届出関係、修繕

4-1. 令和3年度補正予算地城文化財総合活用推進事業

（地域の伝統行事のための伝承事業）

文化庁の補助金を活用し、町内の指定無形民俗文化財の関係団体等に聞き取りを行い、祭礼行事に用いる用具の中で新調および修繕が必要なものについて、当課が事務局をつとめる明和町日本遺産活用推進協議会が窓口となって、事業を実施した。

・「前野のお頭神事」（前野）：獅子舞前垂れの新調



左：新調した前垂れ 右：以前の前垂れ

・「宇賀櫻神社かんこ踊り」（有爾中）：鞨鼓新調



新調した鞨鼓

・「大淀の祇園祭」：山車の修繕、太鼓の張替え等
<三世古>



施工状況



新調したワンタ



住民による試し引き



革を張替えた太鼓と新調した縮太鼓

<山大淀>



新調したワンタ



新調したマンジュウ



新調した車輪

<東区>



修繕した山車



修繕作業状況



左：修繕前



右：修繕後



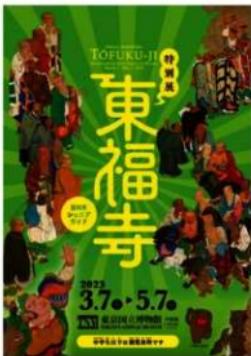
新調した行燈と隅提灯

4-2. 県指定有形文化財の所在地変更届

上野の安養寺が所蔵する県指定有形文化財（工芸品）について、東京国立博物館および京都国立博物館での特別展「東福寺」展示のため、所有者より令和4年11月24日付で所在地変更届の届出があり、三重県教育委員会に対し進達を行った。

概要は以下のとおり。

1. 届出文化財：仏通禪師所用法衣並びに伝来什物 のうち
七條袈裟、直綴、頭陀袋 3点
2. 所在地変更場所：東京国立博物館、京都国立博物館



5. 指定に関わる調査など

- ・5月27日 轉輪寺（明星）浄土三部経曼荼羅 資料調査に同席
- ・6月25日 上村自治会中組の道切行事 明和町文化財保護審議会の中谷委員による現地調査
- ・8月2日 乾家、澄野家（斎宮）建造物 文化庁調査官による事前の現地視察
- ・10月20日 安養寺（上野） 仏通禪師所用法衣並びに伝来什物 出展前の資料調査に同席
- ・12月1日 高塚1号墳（上村） 奈良大学豊島教授、三重県埋蔵文化財センター高松氏 現地実見



登録有形文化財事前調査



高塚1号墳現地実見

6. 新たな指定文化財・登録文化財

6-1. 町指定無形民俗文化財、「上村のシメナワ日待ち」

明和町大字上村の中組において実施されている道切行事について、令和5年2月17日に明和町文化財保護審議会において町指定無形民俗文化財への指定の答申がなされ、同年2月27日の教育委員会において指定となった。

当該文化財の概要および指定理由については、以下のとおり。（指定時の調査報告資料より）

・種 別	無形民俗文化財
・名 称	上村のシメナワ日待ち
・員 数	-
・時 代	-
・実施場所	明和町上村地内
・実施主体	明和町上村中組
・調査年月日	令和4年（2022）6月26日
・調査者	中谷真弓（明和町文化財保護審議会委員）
・概 要	

明和町上村地区では、7月1日をシメナワ日待ちと呼び、各組で山の神や庚申さんに注連縄を掛ける行事が行われていた。上村は上、西、東、中の4組からなるが、道にシメナワを掛け渡しているのは中組だけである。

中組は、集落入口の道に掛けた注連縄を一年に一度掛け替える。シメナワの長さは、約8メートル。注連縄の足にモモの枝とミョウガの葉を付けるのが特徴である。

毎年7月1日に行われていたが、約15年前から7月1日直近の6月末の日曜に変更した。組全戸16戸からひとりずつ参加するが、身内の不幸があると参加を取りやめる。かつては男性のみで行われていたが、現在は女性も参加する。

当日は、シメナワ番と呼ばれる当番が準備等を行う。シメナワ番は、各戸輪番で担当。シメナワの材料はシメナワ番が準備をするが、稻藁は、準備できる家が取り置きしておく。

注連縄を掛ける場所の10メートル程西側に、かつて山の神が祀られていた跡地がある。また集落にある大日寺境内には、上村地区内にあった山の神が集められ祀られている。

・行事内容

（1）準備物

稻藁、青竹（2本）、縄（組で持ち回り）、モモの枝、ミョウガの葉、結束番線（3本）

（2）注連縄作り工程

①午後2時 組頭の挨拶で行事が始まる。

②道に掛かかる注連縄を支柱の竹ごと外す。竹から注連縄を外す。

③外した竹を持って上村集落のはずれにある竹林に行き、まっすぐなものを選ぶ。竹は2年目のものを使用。立てる竹と注連縄を掛ける竹2本を伐り出す。古い竹と長さを合わせて切る。不要な枝は落とす。竹の長さは約4メートル

④ミョウガの葉を畑から採る。桃の枝を準備する。

⑤稻藁は、予め水で濡らして縮わないがしやすくしておく。

⑥一握りずつに取り分けた藁を3人がかりで左に絞り、右巻きで縛っていく。整えた2本の藁束を左に握りながら藁を縦ぎ足し伸ばしていく。注連縄からはみ出した余分な細い藁を鉄で切って整える。

⑦掛け替える前の注連縄と長さを合わせ調整する。長さは約8メートル

⑧注連縄の足に苦荷と桃の枝を縄で結び付ける。足は7本 ※かつては足に紙垂も付けていた。

⑨注連縄を掛ける竹を立てる竹の間に収まるように置いて、不要な枝を伐る。竹は針金で結ぶ。注連縄は竹に紐で結ぶ。

⑩注連縄を結び付けた竹と立てる竹を固定して、立てる場所に移動する。ヒノキの枝に竹を通して注連縄が外れないように固定する。立てた竹も倒れないように支柱と結び固定する。

新しい注連縄が掛け替えられる。

- ⑪注連縄を掛け替える前に⑪大日寺の庚申塔、各山神碑に洗米を供え、御神酒で清める。すべての山の神碑のお清めが終わった後、かつて中組に祀られていた山の神に参る。⑫山の神跡地に洗米を供え、御神酒で清める。
- ⑬新しい注連縄を掛けた竹の足元とヒノキの足元に、洗米を供え御神酒で清める。午後3時30分終了
- ⑭終了後、御菓子と御神酒、洗米をいただく（直会）。※かつては当番宅で料理を準備し会食をしていた。

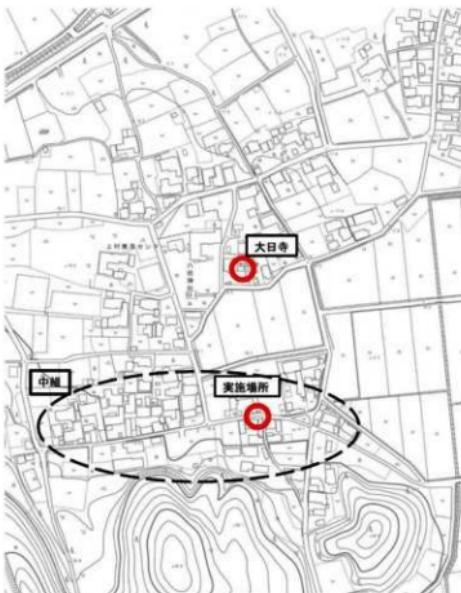
・由来等

行事の由来は伝えられていないが、村と村の境には古くから魔や疫病を流行らせる神が出入りすると考えられていたことから、集落の境界にあたる道には魔を防ぐ、追い払うため道祖神が祀られたり、シメナワを掛けたりする道切りが行われていた。また農民の間では、農耕の開始される春に山から迎えた山の神は、田の神となって五穀の生育を見守り、収穫後には再び田から山の神となるとされていた。当該地区的行事実施場所は、集落の入り口にあたり、近くに山の神が祀られている（現在は大日寺に移設）。また、桃の木は邪気を払う力がある靈木とされている。村から災疫を防ぐための魔除けとして、桃の枝や若荷の木が使われたのではないかと思われる。この注連縄を掛け渡す行事には、人々の健康安全と五穀豊穣の願いが込められているという。開始年はわからない。東組でシメナワを掛けていたとされる石碑には、「文久元年 南無阿弥陀佛 六月廿八」の文字が刻まれている。

・総括

本行事は、地区の外から悪いものが入ってこないよう、集落境界である道に注連縄を掛け渡して、共同祈願を行なうものである。町内他地域では途絶える中、唯一残る行事であり、当町の貴重な無形民俗文化財として継承されている。

コロナ禍の中、同地区的天王祭りは中止されたが、「コロナ禍だからこそやらないといけない」と中断することなく実施している。本行事が重要な位置づけであることを示している。同組の年長者が祖父から伝え聞いた「しめ縄（注連縄）由来」を纏めた資料を配布し、シメナワ日待ちを行う意義の再確認、注連縄の縄の掛け方を後継に指導するなど組全体の行事継承への強い思いも見受けられる。



関連地図



前年度のシメナワ撤去



前年度と比較しながら製作



縄ないの状況



シメナワへの飾り付け（モモの枝、ミョウガ）



取付け状況



大日寺境内の庚申、山の神碑への参拝



シメナワをかけるヒノキの根元へお神酒と洗米をまく



山の神があつたとされる箇所へお神酒と洗米をまく

6-2. 国登録有形文化財・「乾家住宅門及び堀」・「澄野家住宅主屋」

明和町斎宮の伊勢街道沿いに所在する「乾家住宅門及び堀」・「澄野家住宅主屋」について、令和4年8月2日に文化庁による事前調査を受け、令和5年3月17日に開催された文化審議会文化財文科学会での審議・議決を経て、文部科学大臣に答申がされた。答申された文化財の概要は以下のとおり。
(三重県の発表資料より)

● 乾家住宅門及び堀 1件 (明和町)

【名 称】 乾家住宅門及び堀 1件

【種 別】 国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】 三重県多気郡明和町大字斎宮

【年 代】 江戸時代後期／昭和中期改修

【建築面積】 門 間口 2.9m、堀 総延長 39m（街道沿いの東西方向 33m（門間口含む）+敷地内に延びた南北方向 6m）

乾家住宅は明和町大字斎宮を通る伊勢街道の南側に立地します。江戸時代、斎宮周辺は旅籠屋や茶屋などが並び、伊勢神宮に向かう参宮客でにぎわいました。

乾家は、江戸時代には神宮の直轄領であった斎宮村の庄屋を務めた旧家です。領主である神宮から伝達される指示や禁令を周囲の村々に伝達する「触頭（ふれがしら）」としての肩書を持つとともに、周囲の各村を統括し領主である神宮と直接交渉を行った大庄屋的な役割も担いました。

門は切妻造り（きりづまづくり）本瓦葺きの薺門（やくいもん）で、高さは約2.4mです。門の柱・扉はケヤキ材が用いられています。堀は棟瓦葺きの真壁造り（しんかべづくり）黒漆喰（くろじつまい）仕上げで、下半を下見板張り（したみいたぱり）とします。堀は、門の西側に17.3m、東側に12.7m延び、街道沿いの全長は33m（門の間口 2.9mを含む）です。

乾家住宅門及び堀は旧家にふさわしい重厚な造りであり、伊勢街道沿いの街並みを形成する貴重な建造物です。

澄野家住宅主屋 1件 (明和町)

【名 称】 澄野家住宅主屋 1件

【種 別】 国登録有形文化財（建造物）

【所 在 地】 三重県多気郡明和町大字斎宮

【年 代】 大正5年（1916年）／昭和40年頃、令和元年改修

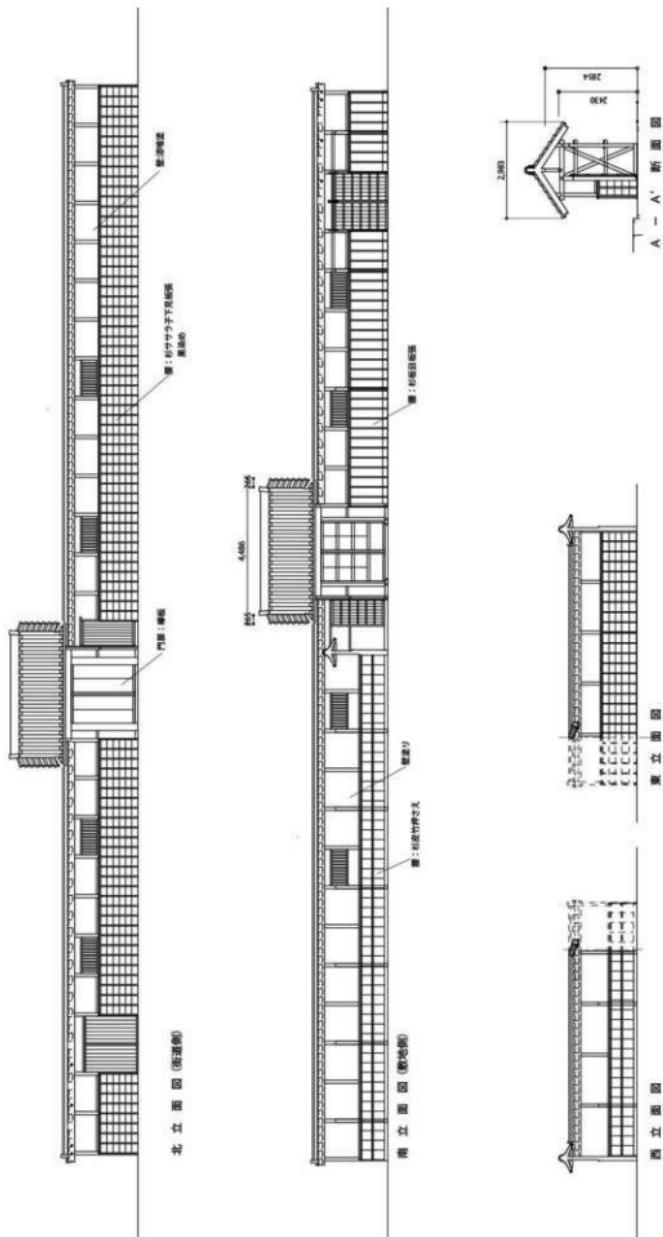
【建築面積】 107 m²

澄野家住宅は明和町大字斎宮を通る伊勢街道の南側に立地します。江戸時代、斎宮周辺は旅籠屋や茶屋などが並び、伊勢神宮に向かう参宮客でにぎわいました。

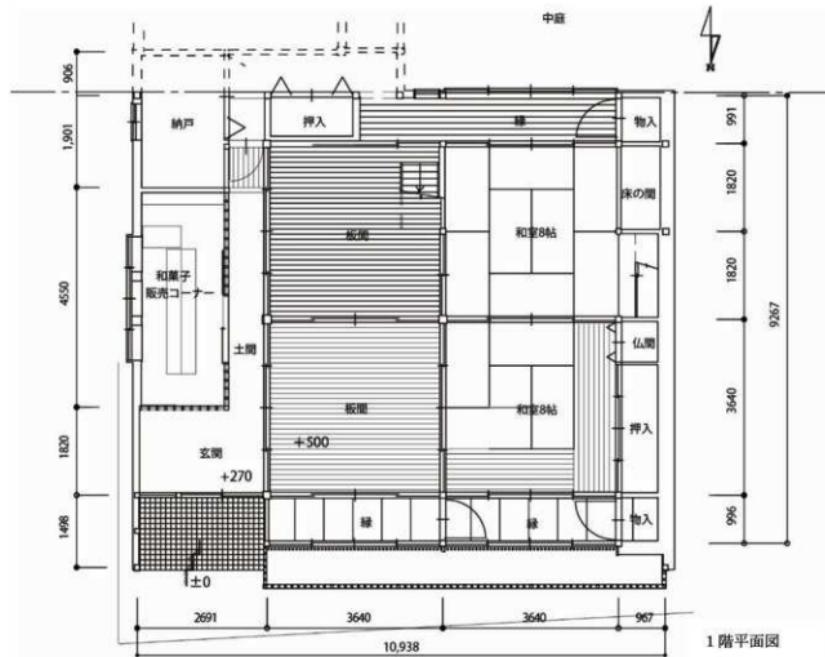
澄野家は、江戸時代には現在の場所から北東約50mのところに住居がありましたが、大正時代に現在の土地に主屋を建築し、屋号を「キグスリヤ」として薬原料の仕入れ、製薬・問診・処方などを行いました。「キグスリヤ」は昭和20年代に廃業しましたが、現在も製薬の道具が残っています。

主屋は、つしまで建ての切妻造り（きりづまづくり）平入りの町家です。正面に格子を構え、軒雁木板（のきがんぎいた）をつけています。内部は東を通り土間とし、「ミセ」「ダイドコ」「ブツマ」「オクザシキ」が田の字型に配置されています。

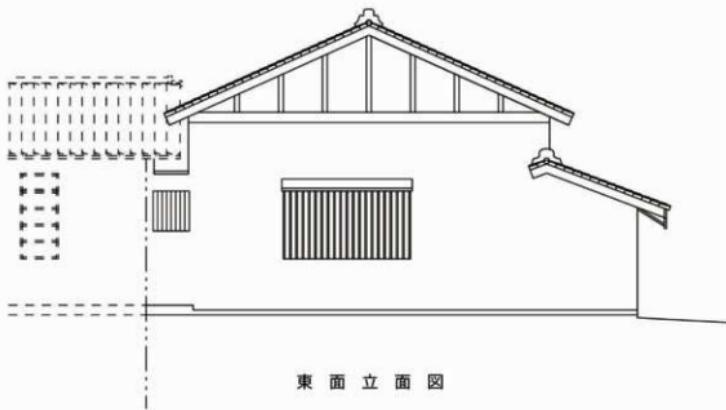
現在は「薬子工房すみ野」、まちかど博物館「いつきのみや 音と生活（くらし）の博物館 澄標（みおつくし）」として使用されています。澄野家住宅主屋は、良材を用いた上質な町家で、伊勢街道沿いの歴史的景観を形成する重要な建造物です。



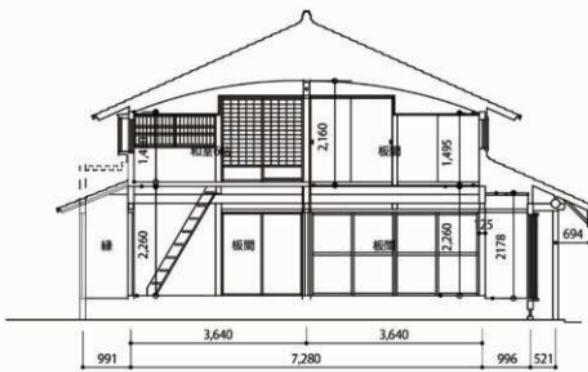
乾家住宅門及び塀 立面図・断面図 1:150



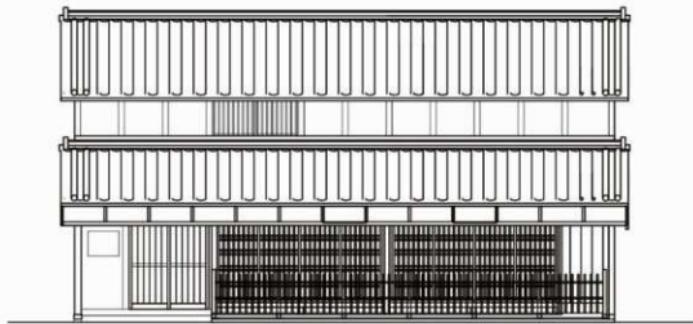
澄野家住宅主屋 平面図 1:100



東面立面図



断面図



北面立面図

港野家住宅主屋 立面図・断面図 1:100

第3章 史跡

<史跡斎宮跡>

1－1. 現状変更許可申請

文化財保護法第125条第1項の規定による史跡名勝天然記念物現状変更の受理：57件

申請の内、発掘調査を実施したものの一部は国庫および県費の補助金を受けた。また、調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館調査研究課および明和町斎宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。なお、令和4年度の調査結果の概要は『史跡斎宮跡 令和4年度 現状変更緊急発掘調査報告』を参照されたい。

1－2. 発掘調査

JA 斎宮支店跡地について、将来的な活用の検討を進めるため、敷地内の発掘調査を実施した。調査内容は前述の報告書を参照されたい。調査に伴い斎宮歴史博物館と共同して現地説明会や隣接する斎宮小学校児童らの見学対応を行った。

現地説明会：令和4年12月4日、参加者99名



現地説明会実施状況

2. 史跡斎宮跡保存活用計画

史跡斎宮跡は、昭和54年（1979）3月27日に史跡指定を受け、昭和55年（1980）3月には『史跡斎宮跡保存管理計画』を策定し、これまで計画等に基づいて史跡斎宮跡の保護をすすめてきた。しかし、指定から40年以上が経過し、社会情勢の変化や、整備の進展、文化財保護法改正など文化財を巡る状況の変化に対応し、引き続き史跡内に生活する住民との共存を図りつつ、保存管理上の課題解決や活用の充実を図る必要もあることから、保存活用計画の策定を目指し委員会を設置した。今後、計画策定に向けて策定委員会および作業部会において作業をすすめていく。なお、委員には地元の国史跡斎宮跡協議会の会長、副会長にも参加をいただき、策定委員会と並行して地元の代表である国史跡斎宮跡協議会の各委員会などへも進捗状況を適宜共有しながら、地元住民の意見も反映しながら進めている。（委員名簿は附録参照）

・令和4年度第1回 史跡斎宮跡保存活用計画策定委員会

【日時】：令和5年1月20日 【場所】：明和町役場研修室 【出席】：12名（委員＊随行あり）

・委員の任命について

・正副委員長の選任について

・計画策定に至る経緯と国の動向

・史跡斎宮跡保存活用計画について

・作業部会の設置と今後のスケジュールについて

・その他

3. 活用

史跡斎宮跡内では年間を通じて、さまざまな団体などによる多様な活用がなされている。主なイベントの実施日と実施主体は下記とおりである。

- ・朱砂会 斎の宴 【個人】 5月 22 日
- ・第39回斎王まつり【斎王まつり実行委員会】 6月 5 日
- ・謎解き冒険ゲーム めい姫とこども博士【竹神社】 7月 14 日
- ・なつまるフェスタ【個人】 7月 18 日
- ・ろうそくと竹の灯りイベント【(公財) 斎宮跡保存協会】 9月 10 日
- ・竹神社満月参り縁日【竹神社】 9月 10 日
- ・スマホ de 周遊フォトビンゴ【(一社) 明和観光商社】 9月 23 日～12月 25 日
- ・いつきのみや斎王楽市【個人】 9月 24 日、11月 19 日
- ・プリンセス斎王体验（インバウンド向けモニターツアー）【(一社) 明和観光商社】 10月 6 日
- ・斎宮コスプレ物語【(公財) 斎宮跡保存協会】 10月 15 日
- ・こどもわいわい秋祭り【明和町日本遺産活用推進協議会】 10月 16 日
- ・いつきのみや market vol.4【個人】 10月 16 日
- ・斎宮を照らす花の座談会【(一社) 明和観光商社】 10月 23 日
- ・国史跡斎宮跡平安物語 プロジェクションマッピング 2022
【(一社) 明和観光商社】 11月 3 日～5 日
- ・斎宮歴史博物館デジタルアート展示 斎宮と王朝のみやび【斎宮歴史博物館】 11月 3 日～5 日
- ・こどもわいわいクリスマス【明和町日本遺産活用推進協議会】 11月 13 日
- ・第19回小倉百人一首交流フェスティバル【三重県かるた協会】 11月 13 日
- ・花の苗植え体験会【(一社) 明和観光商社】 11月 17 日～20 日
- ・グリーンスローモビリティ（牛車もうぐる）実証実験
【(一社) 明和観光商社】 12月 9 日～1月 13 日
- ・斎宮ガストロノミーツアー【(一社) 明和観光商社】 12月 10 日
- ・ME IWA SPECIAL DAY【個人】 12月 11 日
- ・ドローンショー【(一社) 明和観光商社】 12月 11 日
- ・追懲のまつり【(公財) 斎宮跡保存協会】 12月 18 日
- ・斎宮ドライブインシアター2022【(一社) 明和観光商社】 12月 24 日、25 日
- ・大根収穫・はさ掛け体験【個人】 12月 26 日、27 日
- ・こどもわいわいフェスティバル【明和町日本遺産活用推進協議会】 3月 19 日（日）
- ・鉄道ログイニング in 明和町 【近畿日本鉄道株式会社】 3月 19 日
- ・史跡内 桜のライトアップ【個人】 3月 27 日～31 日
- ・いつきのみや巡り 2023【明和町日本遺産活用推進協議会】(スタンプラリー)

<定期開催>

- ・SPECIAL SUNDAY【個人】 毎月第2日曜
- ・竹神社満月参り、花手水【竹神社】
- ・満月屋台【明和観光商社】
- ・さいくう市 每月第1・第3日曜日に開催【(公財)斎宮跡保存協会】
- ・#あしもとから@史跡斎宮跡リフレッシュウォーク 毎月15日に実施【個人】
- ・日本遺産「斎宮」ストレッチセラピー【ionotot 主催】

<公園利用>：利用申請件数71件 申請を伴わない学校の利用：18校

第4章 天然記念物

斎宮のハナショウブ群落

・開花状況（過去3年分も合わせて表示）

	一輪目	咲き始め	満開	終了
R4	5月26日	5月27日	6月8日	6月22日
R3	5月24日	5月24日	6月7日	6月15日
R2	5月28日	5月29日	6月11日	6月19日
R1	5月27日	5月29日	6月11日	6月27日



満開頃の開花状況

第5章 埋蔵文化財

1. 周知の埋蔵文化財包蔵地における発掘届出

・届出件数

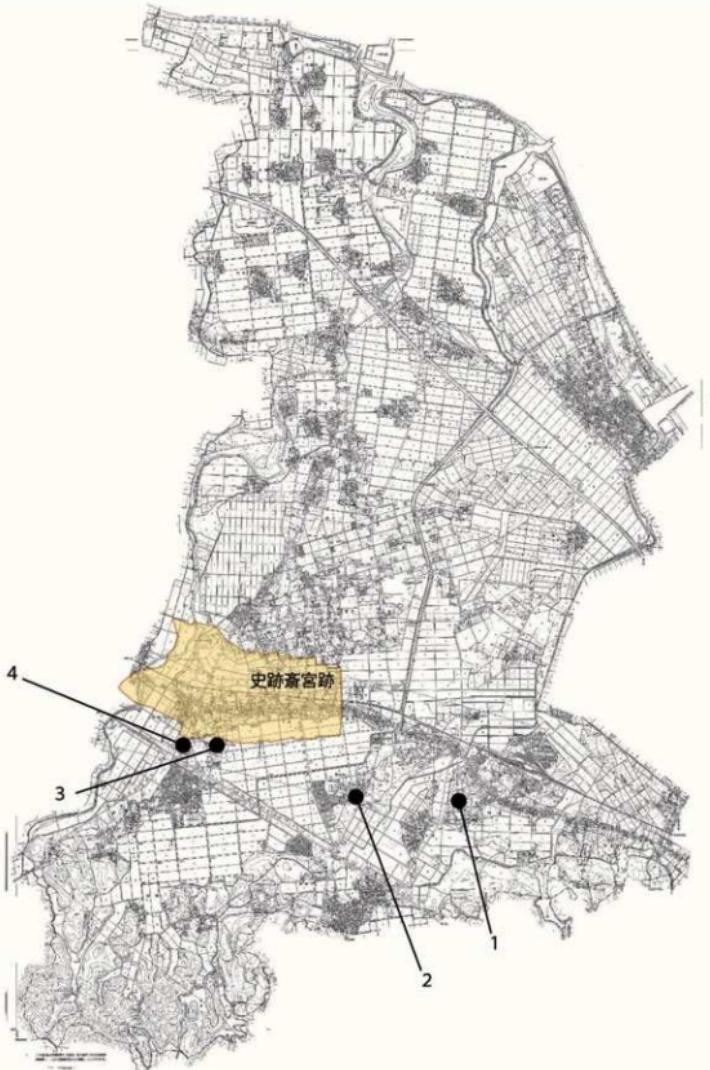
文化財保護法第93条第1項の規定による土木工事等発掘届出の受理：21件

・発掘調査

調査は明和町斎宮跡・文化観光課文化財係が行った。緊急発掘調査を実施したのは4件、工事立会は4件である。その内、発掘調査については下記一覧表のとおりである。また、周知の埋蔵文化財包蔵地外ではあるが上野での下水道事業において安養寺跡隣接地で工事が行われたため、上下水道課と協議を行い、施工時に工事立会を実施した。調査の内、主要なものについて次節で概要を報告する。ただし、報告の内容は現在も整理中のため、あくまで暫定的なものである。

令和4年度 緊急発掘調査一覧

No.	道路名	所在地	調査期間	調査面積 (m ²)	申請者名	備考
1	黒土道路	明星字黒土 1500	4月20日～ 6月20日	247	株式会社山野建設	土師器焼成土坑5基、土坑、豊穴建物、柱穴、溝
2	北野道路	斎宮字大頭 922番27、923番4	5月19日	3	個人	遺構・遺物なし
3	露越道路	竹川字南裏 174番5	9月8日	3	個人	遺構・遺物なし
4	金剛坂道路	金剛坂字古堰内 1079番3	3月16日	4	個人	豊穴建物



・令和4年度 発掘調査位置図（番号は一覧表と対応）

2. 主要調査の概要

No. 1

遺跡名：黒土遺跡

遺跡番号：230

調査地：明和町大字明星字黒土 1580

事業主体：株式会社山野建設

調査原因：宅地造成

費用負担：原図者

調査機関：明和町斎宮跡・文化観光課

担当者：味噌井拓志

調査期間：令和4年4月20日～6月20日

調査面積：約 247 m²

【概要】

宅地造成に伴い事前に発掘調査を実施した。令和3年度に本調査に先立って試掘調査を実施し、遺構・遺物を確認できたため、事業者と協議を行い造成部分の中でもやむを得ず遺構が破壊されてしまう道路部分等について本調査を行った。

調査では、奈良時代の土師器焼成土坑5基、竪穴建物と思われる遺構1棟、土坑1基、柱穴、中世の溝7条および柱穴などを確認した。

また、6月16日、17日には発掘調査現場の現地公開を行い、地元住民を中心に39名の参加があつた。

調査では元文化財保護審議会会长の下村登良男氏より指導いただいたほか、斎宮歴史博物館調査研究課の川部浩司氏、小原雄也氏からも指導をいただいた。



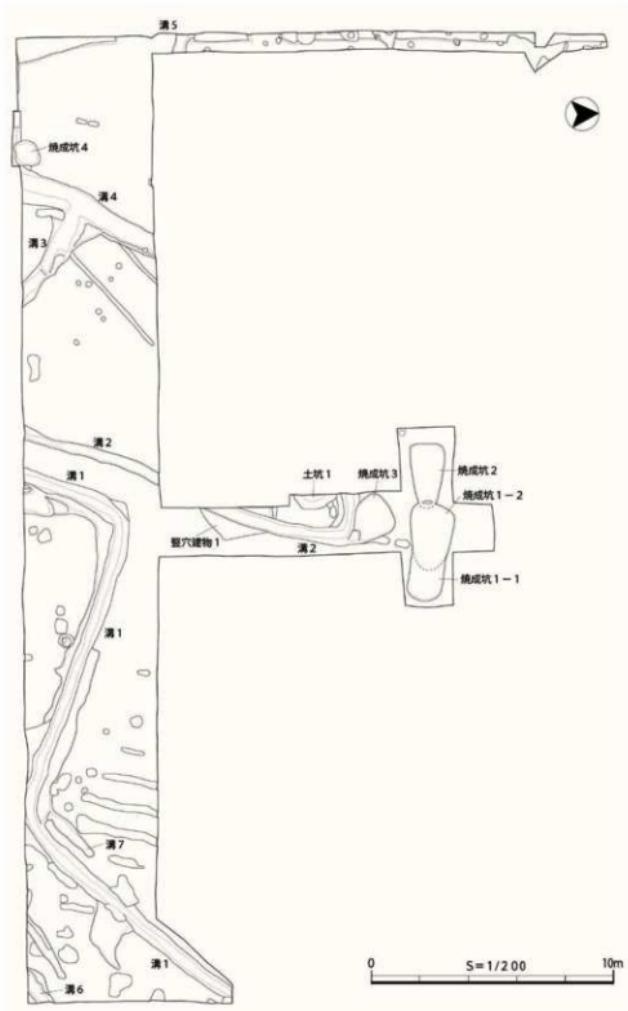
調査地位置図（1:3000）



調査区全景（東から）



焼成坑 1-1、1-2、2、3（南東から）



黒土遺跡発掘調査 遺構平面略図 (1:200)

No.4

遺跡名：金剛坂遺跡

遺跡番号：36

調査地：明和町大字金剛坂字古垣内 1075

事業主体：個人

調査原因：個人住宅

費用負担：原因者（協力）

調査機関：明和町斎宮跡・文化観光課

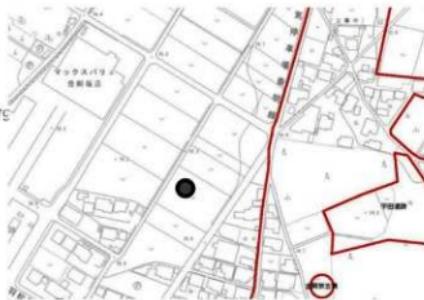
担当者：味噌井拓志

調査期間：令和5年3月16日

調査面積：4 m²

【概要】

個人住宅の建設に伴う浄化槽埋設部分について発掘調査を実施した。調査では堅穴建物と思われる遺構を検出した。調査面積が小さいものの、遺構は堅穴建物の北辺の一部にあたると思われ、一部が北側に突出しており、被熱を受けている状況が確認できたことから、カマド部分と思われる。カマド内部の埋土からは土師器の甕が出土しており、遺構の時期は奈良時代に属すると考えられる。



調査位置図 (1 : 3000)



遺構掘削状況（北から）



遺構掘削状況（直上から）

3. 企画展「竹川、金剛坂の古代の暮らし」

場所：小林農産ふるさと会館 会期：7月 16 日～8月 28 日 観覧者数：121 名

＜展示解説会＞ 7月 24 日 10:00～11:00 参加者数：16 名

企画展に合わせて明和町文化財解説シート「竹川、金剛坂の古代の暮らし」を作成した。



展示解説会



文化財解説シート

4. 貸出・資料提供

通年：斎宮歴史博物館 水池土器製作遺跡出土土師器計 4 点 常設展にて展示

通年：安養寺 安養寺跡の発掘調査出土品（青磁香炉など計 18 点）の展示

通年：JA 明和南支店 北野遺跡の発掘調査出土品の展示

随時：中央公民館郷土史講座への画像等の提供

7月 5 日：展覧会「刀剣～古代の武といのり～」に金銅装頭椎大刀画像データ提供

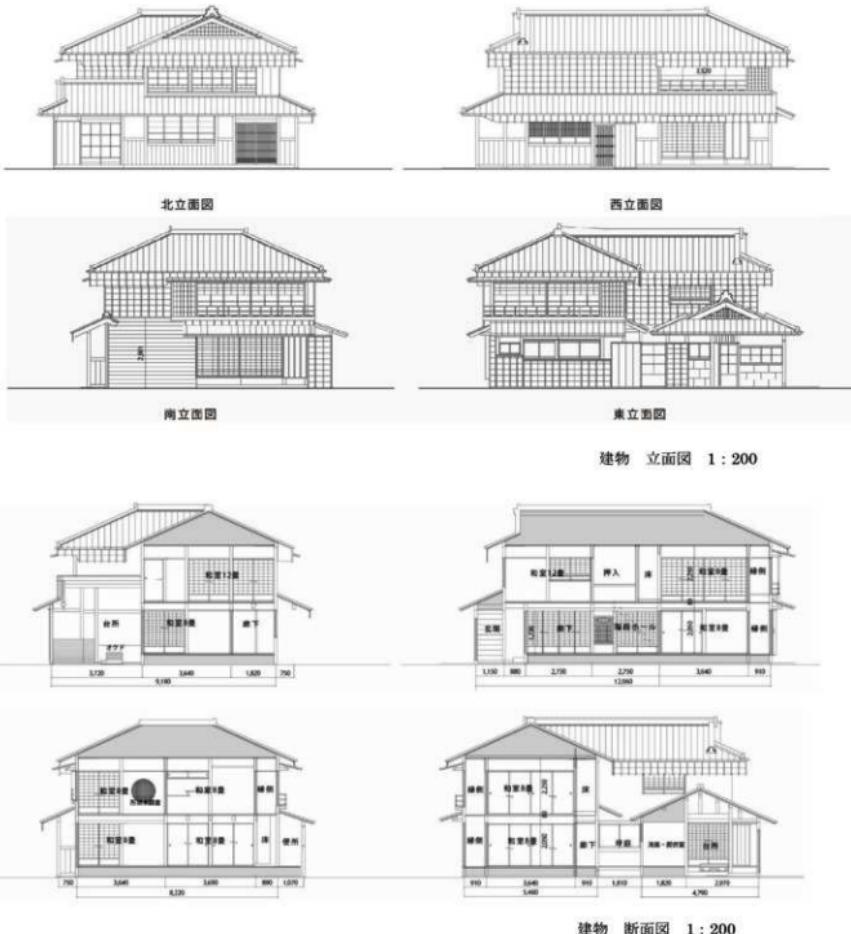
11月 16 日：轉輪寺カフェテラス 下村登良男氏講演会へ明星古墳群出土遺物提供

第6章 その他の文化財・日本遺産など

1. 建造物

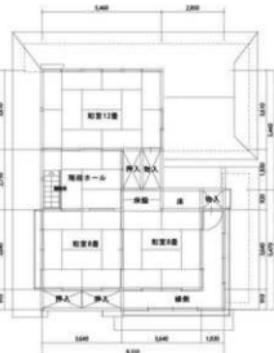
1-1. 三忠

新茶屋の伊勢街道沿いで擬革紙製造および販売を行っていた三忠に関する建造物について、5月11日に明和町文化財保護審議会委員の高橋徹氏に依頼し、建物および納屋の建造物調査を実施した。関連して明和町地域おこし協力隊の北田智里氏と10月27日に擬革紙関係資料の調査も実施した。

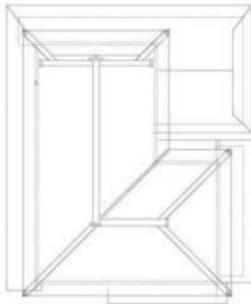




18平頭頭



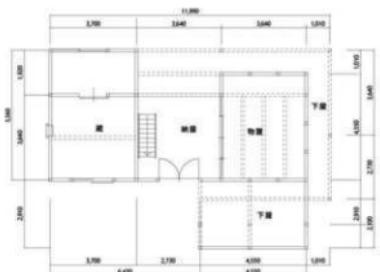
九四



基础设置

游戲機
1% 93.86ml
2% 75.37ml
合計 169.13ml

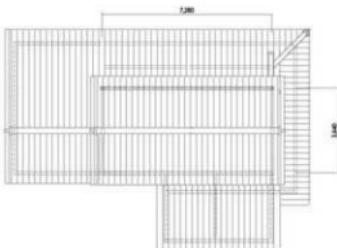
建物 平面図 1:200



100



36平書



納屋 平面図・屋根伏図 1:200



建物 北面



西面



建物 西面、南面



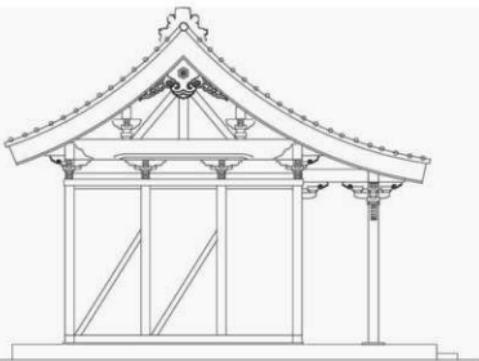
東面



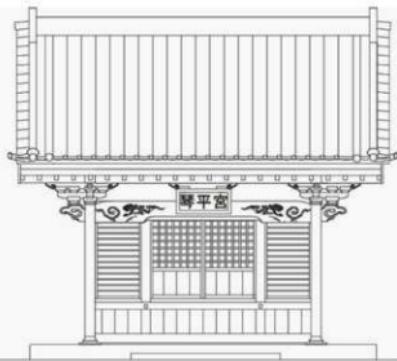
建物調査状況

1-2. 金刀比羅神社 (*個人所有のため、公開していない)

大堀川新田に所在する金刀比羅神社について、11月28日に明和町文化財保護審議会委員の高橋徹氏に依頼し、建造物調査を実施した。

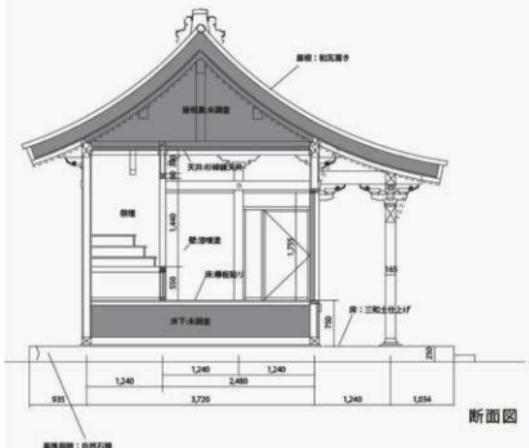


西立面図



南立面図

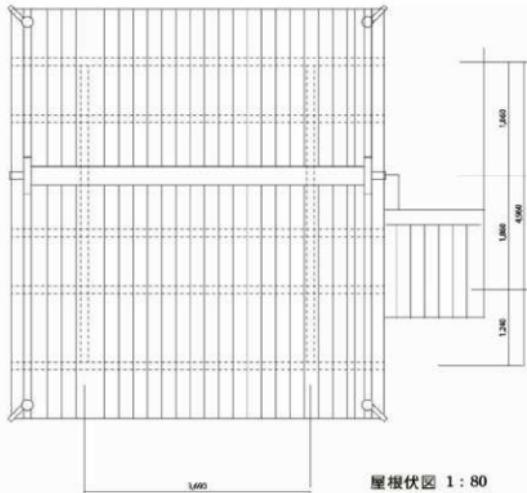
1:80



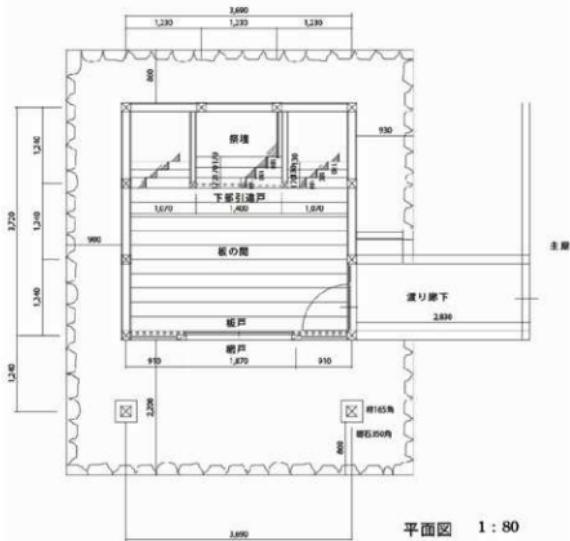
断面図

正面姿図

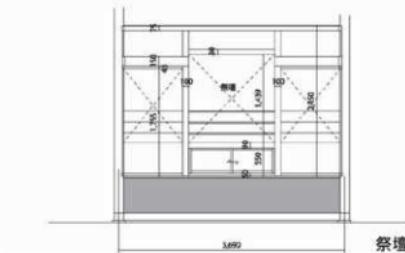
1:80



屋根伏図 1:80



平面図 1:80



調査状況

2. 有形文化財

5月 16 日：新茶屋 庚申堂（両谷寺境内）調査

5月 18 日：大淀 楽平旅館調査

12月 13 日：浜田 個人所蔵品調査



新茶屋庚申堂調査

3. 無形民俗文化財等

3-1. 調査など

4月 10 日：田屋 伊勢太神楽現地調査

6月 6 日～7月 24 日：イオン明和

大淀の祇園祭フォトコンテスト作品展示開始

7月 8 日～24 日：イオン明和

大淀の祇園祭 衣装等展示



大淀の祇園祭 衣装等展示

3-2. 開催状況 当課で実施状況が確認できたものを記載した。

上村のシメナワ日待ち：実施（6月 26 日）

佐田西出天王さんのお社塔：実施（7月 10 日）

養村虫送り：開催（7月 13 日）

宇爾櫻神社かんこ踊り：例年の7月の実施なし、10月 16 日宮立ち時に開催

大淀祇園祭：三地区とも飾り山のみ（7月 30 日）

志貴の精靈相撲：実施（8月 16 日）

中村の安産祈祷相撲：実施（8月 23 日）

池村の道切行事：12月 25 日に日程変更、

簡素化し実施

上野のものとう：実施（1月 27 日）

(*本年度をもって終了、関係資料の寄贈を受けた)

前野のお頭神事：開催（2月 11 日）



前野のお頭神事実施状況

3-3. 方言調査

明和町で使われている方言を、実際に使っている人の「生きた声」で残すことを目的に、10月5日、中央公民館の郷土史講座受講生に協力いただき、明和町の方言調査を実施した。調査内容は明和町行政チャンネルにて特別番組「しゃべって残そにめいわの方言」として放送され、町のYoutube公式チャンネルで公開している。番組の製作にあたっては、皇學館大学齋藤平先生に協力および監修をいただいた。

<採録した方言>

生き物にまつわるもの：かんぴんたん、くちなわ、どんど花
食べ物にまつわるもの：米をかす、なんば、とごる、あめる
動作にまつわるもの：ござる、ちょける、ごうわく、
ぬくとまる、さんす、おしまいなして



取材状況

4. 寄贈・寄託

業平旅館（大淀）：古写真等、
個人（大淀）：古写真、古文書、
上野：大黨関連資料



大黨関連資料（一部）

第7章 学校教育関係

1. 出前授業

当課では、明和町教育委員会と協力し、教員向けの研修や町内各校への出前授業などを実施した。なお、詳細は役場ホームページに公開している。

4月7日：明星小学校教諭

黒土遺跡発掘現場見学 12名

6月9日：上御糸小学校6年生 出前授業

(坂本古墳群、隆子女王の墓、西出遺跡)

6月13日：明星小学校6年生

黒土遺跡発掘現場見学

6月20日：明星小学校6年生

水池土器製作遺跡等授業

7月5日：明星小学校6年生 轉輪寺見学

7月11日：明星小学校3年生 校区探検

水池土器製作遺跡見学

7月12日：明星小学校6年生 安養寺見学

8月18日：夏季教職員研修（斎宮歴史博物館）

10月12日：明和中学校2年生 職場体験

10月21日：修正小学校1～5学年 楽平松見学

10月28日：斎宮小学校2年生

校区探検（竹神社跡、計画調査地、斎宮歴史博物館）

11月25日：斎宮小学校6年生 発掘現場見学

11月28日：斎宮小学校1年生 斎宮跡どんぐり拾い

12月16日：斎宮小学校5年生 発掘現場見学



明星小学校 水池土器製作遺跡見学



斎宮小学校 斎宮跡発掘調査現場見学

2. 地域学習交流事業

地域学習交流事業として、斎宮跡、日本遺産への児童の理解・関心を高めるため、関係施設等への校外学習に必要なバス費用について、補助を行った。（＊斎宮歴史博物館：博物館、いつきのみや歴史体験館：体験館、いつきのみや地域交流センター：センターと表記し、学校間交流分は記載していない）

9月21日：上御糸小学校（6年） 体験館、博物館

9月27日：斎宮小学校（3年） 体験館、スーパー

10月17日：上御糸小学校（2年） 津波タワー、楽平松、大淀海岸

10月18日：下御糸小学校（2年） 竹神社、動物園

10月21日：修正小学校（1、2年） 大淀、楽平松、水族館

- 10月21日：修正小学校（3、4年）　業平松、三重県庁、Miemu
- 10月21日：修正小学校（5年）　大淀、業平松、神前浦
- 10月25日：明星小学校（3年）　博物館、体験館、センター、ふるさと会館
- 11月1日：上御糸小学校（3年）　業平松、ふるさと会館、役場、JA営農センター、スーパー
- 11月18日：下御糸小学校（3年）　体験館
- 12月1日：上御糸小学校（4年）　博物館、明和町役場
- 1月24日：下御糸小学校（1、3年）　体験館、博物館
- 2月24日：修正小学校（6年）　業平松
- 3月8日：修正小学校（1～6年）　史跡斎宮跡ロマン広場

3. 副読本検討会

校区再編や小中一貫教育などに合わせ「仮称めいわ科」の副読本作成やカリキュラムの検討に向けて、当課職員も検討会に参加している。本年度は計8回の検討会が開催された。

4. その他

当課では、4月に明和町へ新たに着任した教員に対し、「文化財資料キット」を配布し、授業での活用を呼び掛けている。キットの内容は以下のとおり。

- ・出前授業の呼びかけ
- ・さいくうあと通信
- ・文化財解説シート
- ・マンガ本
- ・どんど花（チラシ）
- ・文化財授業例（HPより）
- ・各種リーフレット（かわせみ座、博物館、体験館、へいあんの杜、坂本古墳群、交流センター）



文化財資料キット

また、町内各小学校5年生へ日本遺産マンガ本の配布を行っている。

第8章 講座などの普及啓発活動、その他

1. 地域文化財総合活用推進事業

文化庁の補助を得て、当課が事務局である明和町日本遺産活用推進協議会において「明和町文化遺産活用普及啓発事業」として平成30年度から事業を実施している。本年度は事業の最終年度にあたり、史跡斎宮跡をはじめとして町内全城の文化遺産を対象として、通年形式で講座・フィールドワーク・シンポジウムを実施した。講座には町内を中心に10代から90代までの幅広い年齢層が各回30名以上の参加があった。最終回には、受講生からも「おすすめの文化遺産」の発表も行われた。各講座内容は収録・編集し、Youtubeで公開している。実施内容は以下のとおり。

◎1回目 令和4年8月7日「祈る皇女・斎王のみや・斎宮」参加者：42名

- ・明和町に点在する神宮・斎宮との関わり：乾哲也（明和町役場）
- ・文字からわかる斎宮の歴史：榎村寛之（斎宮歴史博物館）
- ・モノからわかる斎宮の歴史：大川勝宏（斎宮歴史博物館）

◎2回目 令和4年9月11日「神仏をまつる」参加者：43名

- ・明和町の仏像史：藤田直信（明和町文化財保護審議委員）
- ・伊勢神宮と明和町の関わり：千種清美（皇學館大学講師）
- ・明和町の祭礼行事の特徴について：板井正齊（皇學館大学）

◎3回目 令和4年11月27日 フィールドワーク 参加者：30名

- ・御糸織：西口裕也（御糸織物株式会社）
- ・擬革紙：塙木茂（まちかど博物館三忠）、北田智里（明和町地域おこし協力隊）
- ・水池土器製作遺跡：味噌井拓志（明和町役場）

◎4回目 令和4年12月12日「伊勢街道と街道文化」参加者：36名

- ・伊勢神宮と街道文化：谷戸佑紀（皇學館大学）
- ・明和町の伝統産業の魅力：福田良彦（三重県総合博物館）
- ・伊勢街道の町家・町並の面白さ：菅原洋一（三重大学）

◎5回目 令和5年1月22日 講座生発表会・シンポジウム 参加者：33名

榎村寛之、中野敦夫（元明和町役場）、乾哲也、味噌井拓志（司会）



講座実施状況



フィールドワーク実施状況



発表会実施状況



シンポジウム実施状況



擬革紙製の修了証（明和町地域おこし協力隊杉山大

介氏によるデザイン及び北田智里氏による製作）

2. 講座・イベントなど

4月 4日：役場新人職員向け斎宮跡等の研修

10月 27日：中央公民館 寿教室

1月 25日：文化財防火デー 消火訓練 いつきのみや歴史体験館、さいくう平安の杜にて実施

3月 10日～3月 31日：四日市市史跡久留信官衙遺跡パネル展（於：さいくう平安の杜）

3. 刊行物

3-1. さいくうあと通信

令和4年度は第36号を発行した。

36号 発行日：3月 19日

「新しい指定文化財の紹介～上村のシメナワ日待ち～」、「新しい登録有形文化財の紹介 乾家住宅門及び塀、澄野家住宅主屋」



3-2. 文化財解説シート

令和4年度に刊行した「さいくうあと通信」

「竹川、金剛坂の古代の暮らし」

3-3. 史跡斎宮跡 令和3年度現状変更緊急発掘調査

3-4. 露越遺跡第16次、第17次発掘調査概要

*これらの刊行物はインターネット上の全国遺跡報告総覧で閲覧できる。

4. 問い合わせ対応、資料調査対応など

4月：志貴西光寺仏像見学（個人）、養川の仏像について（個人）

5月：ショウブについて（個人）

6月：町内の古文書について（個人）

7月：伊勢街道沿いの鐘道像について（個人）、月次祭について（個人）、鱗尾城について

8月：松阪ケーブルテレビ アルキノ「水池土器製作遺跡」

10月：神御衣祭について（個人）、しめ縄の風習について（個人）

11月：バカ貝供養碑について（個人）、「盃」性について（個人）

12月：明和町文化財保存活用地域計画について（個人）

1月：竹神社の灯籠について（個人）、蓑村採集の土器について（個人）バカ貝供養碑について（個人）、竹神社について（個人）、金剛坂遺跡について（個人）

5. 文化財保護関係団体などの活動

・史跡斎宮跡の植栽（町民等参加）

6月 10 日：史跡斎宮跡植栽計画推進委員会

*新型コロナウイルス蔓延のため、事務局にて菜の花の種まき実施

・呉竹俱楽部

さいくう平安の杜、近鉄斎宮駅北口休憩所の施錠、駅構内の植栽、各種イベントへの参加等

・いつきのみやガイドボランティア

案内件数：543 件、ガイド人数：1,806 名

・明和町郷土文化を守る会

4月 30 日、5月 21 日、6月 11 日、7月 16 日、

11月 12 日、11月 20 日：高塚 1 号墳草刈り

6月 17 日：修正小学校高塚 1 号墳現地見学対応

7月 20 日：明星小学校高塚 1 号墳現地見学対応

11月 26 日：高塚 1 号墳見学会 約 50 名

他：町内指定文化財等の草刈り



高塚 1 号墳草刈り状況

・斎王紙芝居かわせみ座

6月 10 日：斎宮小学校 4 年生 対象

8月 18 日：夏季教職員研修（斎宮歴史博物館）

8月 21 日：当課企画展に合わせて開催

（小林農産ふるさと会館）

9月 30 日：斎宮小学校 6 年生 対象

10月 28 日：上御糸小学校 3・4・5 年生 対象

11月 5 日、イオン 20 周年祭

11月 22 日、社協えんがわ教室（明星）

11月 25 日、明星小学校（5 年）

12月 3 日、下御糸小学校みいとフェスタ

1月 28 日、自主公演（斎宮歴史博物館）



かわせみ座上演状況

・郷土史同好会

明和町内の神社集成、町民文化祭にて発表

・明和町地域おこし協力隊（擬革紙：北田智里）

9月 1 日～9月 25 日：

「擬革紙の今昔～革に擬えた紙～展」 114 名



「擬革紙の今昔～革に擬えた紙～展」

6. 関連新聞記事等一覧

※当課で把握できた文化財系に関連する新聞記事等を基に作成した。把握できたもの以外にも関連記事がある可能性がある。

日付	発行機関	記事タイトル
4月2日	夕刊三重	明和町 伝統の擬革紙作り後継地域おこし協力隊 6人目を採用 北田さん(大阪出身)、途絶えてはいけない
4月4日	夕刊三重	古墳をぜひ見学して 明和町郷土文化を守る会 高塚1号墳の墳丘を整備
4月5日	夕刊三重	古墳の周溝から出土した 奈良時代の須恵器など 斎宮歴博で無料企画展
4月6日	中日新聞	菜の花 見頃 春本番 黄色に染まる斎宮跡
4月6日	夕刊三重	擬革紙、もっと広めたい 北田 智里さん(35)
4月7日	読売新聞	コロナ下「祭り」存続危機 術正予算に65億円 用具費・動画開催を支援
4月8日	中日新聞	斎宮から消えた古墳の謎 迫る 歴史博物館 奈良時代の土器展示
4月8日	夕刊三重	「供御」の文字入り高坏など 斎宮歴博で「墨書き土器の発見」展
4月12日	中日新聞	春内側に「供御」斎王との関連は 斎宮歴史博物館 速報展示
4月12日	夕刊三重	斎王様、やっと咲いた 明和町佐田の第2明和ゆかた園で4年目で初、園児も興味津々
4月13日	夕刊三重	「星空のような花畑に」 明和町斎宮「斎王の庭」 チューリップが見頃
4月13日	中日新聞	変わらぬ祭り 変わらぬ思い コロナと共生 復活模様 「伝統継承が危うくなる」
4月14日	中日新聞	斎王役に菅尾さん 「精いっぱい務める」 6月、3年ぶり「まつり」
4月19日	夕刊三重	第37代斎王に菅尾さん 6月5日に斎王まつり 規模縮小し2年ぶり開催
4月21日	中日新聞	斎宮跡周辺 楽しく歩こう 明和で春のスタンブラー
4月21日	夕刊三重	明和町など 地域の魅力、写真で発信 「里まちフォトコン2022」開催
4月25日	夕刊三重	実物の双頭レールなど200点斎宮歴博で春奉企画展 模型で見る懐かしい鉄道輸送
4月26日	朝日新聞	復刻 江戸の定番? 伊勢参り土産 擬革紙たばこ入れ、市民団体が明和町贈呈
4月30日	夕刊三重	復刻したたばこ入れ寄贈 擬革紙の会が明和町に 特産品として展示など検討江戸期の伝統技術継承
5月7日	夕刊三重	琴演奏や紙芝居など 15日に「花まつり」開く 明和町明星の轉輪寺で
5月12日	夕刊三重	「地域に開かれた寺に」 明和町大淀乙の長光寺町指定文化財に阿弥陀如来立像 町教委が指定書交付
5月21日	夕刊三重	斎王まつり 3年ぶり、来月5日開催 明和町斎宮の上園芝生広場などで 1日限りコンパクトに
5月21日	夕刊三重	フォトコンテストも開催 まつり実行委
5月22日	中日新聞	【この人】三重の伝統工芸品「擬革紙」製法を復活 富木 茂さん(72)
5月27日	夕刊三重	明和町 大淀紙園祭、3年ぶり開催 海上渡御や花火などは見送る
6月1日	中日新聞	3年ぶり斎王まつり 盛り上げて 実行委 コロナ禍「新しい形で」5日、明和の斎宮跡周辺 「群行」はコース短縮
6月2日	朝日新聞	初夏を告げるハナショウブ 明和・斎宮
6月4日	夕刊三重	優美であでやか ハナショウブ見頃 明和町斎宮で
6月5日	CBCテレビ	平安時代さながらの衣装で練り歩く「斎王まつり」 新型コロナの影響で3年ぶりの開催 三重
6月6日	中日新聞	明和・斎王まつり 赤や黄の装束 きれい 3年ぶり「群行」、出店にぎわう
6月6日	朝日新聞	あでやかに斎王まつり 明和 3年ぶり

日付	発行機関	記事タイトル
6月 6日	伊勢新聞	3年ぶり斎王まつり 明和町 十二単姿で群行 コロナ対策で規模縮小
6月 6日	夕刊三重	平和と安寧の日々祈る 明和町斎宮の「平安の社」などで 3年ぶり、斎王まつり開催
6月 6日	夕刊三重	平安時代の雅な遊び 曲水で使う羽籠紹介 斎宮歴博エントランスで
6月 6日	三重テレビ放送	今年の斎王は津の二十歳女性 3年ぶりの平安絵巻群行に多くの人
6月 7日	夕刊三重	10日からライブニング講座 古墳などテーマに全10回 斎宮歴史博物館
6月 8日	中日新聞	守り育てたハナショウブ 天然記念物の斎宮群落 五つの池で大輪
6月 11日	中日新聞 (伊勢志摩版)	／ハナショウブ斎宮群落で見頃 明和
6月 20日	夕刊三重	茅の輪、上々の出来栄え 明和町中村 崑島神社「夏越の祓」向け氏子が手作り
6月 24日	朝日新聞	茅の輪ぐるり 半年のけがれ落とす 明和・竹神社
6月 25日	中日新聞	竹神社に茅の輪お目見え 明和 夏越の大祓に合わせ
7月 7日	伊勢新聞	めいわ文化道産講座 11日から受講生募集中
7月 8日	夕刊三重	明和町の日本遺産活用推進協 町民ら対象に初の講座11日から受講生募る年間で全5回 文化や歴史知るシンポも
7月 13日	夕刊三重	緑日や盆踊り、音楽ライブも 明和町竹川のふるさと共生広場で18日、「なつまるフェスタ」初開催
7月 15日	夕刊三重	文献、絵面で知る斎王群行 斎宮歴博で夏季企画展 様子描いた絵巻など42点
7月 16日	伊勢新聞	竹川、金剛坂の発掘成果を紹介 明和町でくじょうから企画展
7月 20日	中日新聞	明和觀光客数 大幅アップ「観光商社」催し、キャンプ場通年営業奏功21年 前年比 6万人増 13万9849人
7月 29日	夕刊三重	斎宮歴博に 平安～鎌倉の「大臣影」贈る 斎宮研究のアカデミー高齢化とコロナで解散、後に
8月 1日	夕刊三重	祭りばやしもにぎやかに 大淀祇園まつり 3年ぶり開催山車巡るスタンプラリー シートランバース体験も 大淀小で子供向け催し
8月 3日	中日新聞	斎王の研究に役立てて 高齢化などで解散のアカデミー明和・歴史博物館へ 絵巻「大臣影」の写本寄贈
8月 5日	夕刊三重	ionotot が受賞 第10回スポーツ振興賞 斎宮跡でストレッチセラピー
8月 5日	伊勢新聞	伊勢物語の意外に知らない話 明和町の斎宮歴史博物館、きょうライブニング講座
8月 6日	GIZMODO	日本初のNFT化した「竹神社デジタル御朱印」が誕生。デジタルで残せるのが強み!
8月 16日	夕刊三重	【いいきい仕事女子34】 地域おこしから起業 【仕事内容】喫茶店主みのりや 秋山 実愛さん(25)
8月 19日	夕刊三重	竹川、金剛坂遺跡の最新発掘成果を紹介 小林農産ふるさと会館で
8月 20日	夕刊三重	伊勢物語の業平テーマに 斎宮歴博でイブニング講座
8月 27日	中日新聞	「逸品」展示 工夫こらす 斎宮歴史博物館 実習の大学生企画
8月 30日	伊勢新聞	「伊勢物語」の主人公モデル 「在原平」に焦点虚実の間、歌仙に迫る資料50点 本社後援 斎宮歴史博物館 10月から特別展
9月 5日	中日新聞	麗革紙の今昔 歴史知って 明和で25日まで展示会 製作工程を紹介、道具も展出
9月 8日	伊勢新聞	観光やドローン推進で意見交換 手話と明和町長が対話
9月 8日	夕刊三重	明和町の観光施策 道の駅整備、県「応援する」世古口町長に一見知事約束24年の大河ドラマも起爆剤
9月 8日	みんなの経済新聞	三重のローカル季刊誌「NAGI」90号 県内の古墳を特集
9月 9日	中日新聞	斎宮跡で楽しむ中秋の名月 あず うろそくや竹製ランプともす 竹神社では子ども向け縁日
9月 12日	夕刊三重	うろそく2千本、幻想的に彩る 明和町の斎宮跡 歴史ロマン広場で
9月 14日	夕刊三重	伝統技術「擬革紙」の歩み 北田さん(明和町地域おこし協力隊)が紹介小林農産ふるさと会館で

日付	発行機関	記事タイトル
9月 15日	中日新聞	明和「斎王まつり」フォトコンテスト 入賞作展示 25日まで 平安安装 東多彩な瞬間
9月 23日	中日新聞	ミジュマル ゲットだぜ！魅力再発見スタンプラリー 県、観光促進へ周遊事業
9月 26日	伊勢新聞	飛鳥期の斎宮解き明かせ あすから速報展示 発掘調査の成果解説 明和町の博物館
10月 12日	夕刊三重	平爾禪神社 準備万端、15日に遷宮祭 明和町有爾中 奉祝祭では3年ぶりにかんこ踊り、子供も練習熱む 3年ぶり、低学年は絆踊り
10月 17日	夕刊三重	「伊勢物語図屏風」など展示 斎宮歴博「晉男」在原業平ちなむ特別展
10月 28日	夕刊三重	絵巻の世界、幻想的に 斎宮博で3~5日 夜間開館でデジタルアート
10月 31日	夕刊三重	秋の自然や運動楽しむ 斎宮池地熱おこし推進協 斎宮調整池でフェスティバル
11月 1日	中日新聞	『伊勢物語』主人公のモデル 「六歌仙」在原業平に迫る 明和・斎宮歴史博物館資料50点展示 堆面描いた屏風や鏡箱
11月 8日	中日新聞	観光の目玉、知名度不足 「斎宮跡知ってる」わずか8.5%町長選・町議選きょう告示 町の課題は
11月 18日	中日新聞	秋深まり 色づく木々 黄色と赤 青空に映え 明和・イチョウ並木
11月 19日	日本経済新聞	岐阜、装束で寺院巡礼 東海の日本遺産は多様に 忍者ガイドの養成講座【三重】「弥次・喜多」で土産開発【静岡】
12月 5日	中日新聞	明和「斎宮跡」掘っ立て柱建物 新たに4棟分 造構发掘 現地説明会に100人
12月 5日	WWJDJAPAN	三重にみがえる幻の「擬革紙」 ファッションデザイナー高谷健太と巡る「ときめき、ニッポン。」第9回
12月 7日	夕刊三重	国史跡斎宮跡 新たな造構、4棟発見方格街区の外側 掘っ立て柱建物 現地説明会に100人参加
12月 11日	中日新聞	明和・斎宮跡 周遊 観光客を電動カートで 東証実験の出発式
12月 12日	夕刊三重	斎王や月、夜空に 斎宮歴史博物館隣接の広場 幻想的、ドローンで描く
12月 13日	中日新聞	ドローンの光 夜空に「祈り」 明和 町内外の1000人ショー楽しむ
12月 15日	夕刊三重	中根城から出土の杯など 「飛鳥時代の斎宮」速報展 斎宮歴博、5年間の成果紹介
12月 19日	毎日新聞	明和「斎宮跡」発掘調査 新たに建物造構 発見 史迹、理解する上で重要に
12月 19日	夕刊三重	「静かに」鬼はらい 斎宮で追儺のまつり 新年の幸福祈る
1月 13日	夕刊三重	日中。春感じる陽気 紅梅咲き始める 明和町竹川の梅林で
1月 13日	夕刊三重	道後唐が運んだ鎧？ 斎宮歴博エントランスで 下園東区画出土の銅鏡片展示
1月 18日	夕刊三重	明和町「伊勢麻」で産業振興 来年度から新プロジェクト 三重大などと連携し生産・供給
1月 18日	夕刊三重	「伊勢麻」など技術継承の地域おこし協力隊員募集 明和町
1月 23日	中日新聞	文化財や郷土史 讲座能活用し発表 明和・斎宮
1月 23日	夕刊三重	「明和町は すごい場所」 受講生が成果発表 文化遺産の連続講座、総括で
1月 24日	中日新聞	紅白そろい咲き ウメがお目覚め 斎宮歴史博物館
1月 25日	夕刊三重	「輝」テーマに17館180点 斎宮歴博で 来月5日まで 松阪・紀勢界隈まちかど博物館企画展
1月 26日	伊勢新聞	斎王まつり 出演者募集 明和町、6月に開催
1月 26日	夕刊三重	「伊勢街道」事業家募る 明和観光商社、来月24日まで
2月 7日	中日新聞	明和の伊勢街道 再びにぎわいを 観光商社 活用アイデアを募集
2月 17日	夕刊三重	区画規模確定へ前述 奈良時代の斎宮跡中根城 東側区画の東辺に解説 ある現地説明会 明和町竹川で斎宮博調査
2月 18日	中日新聞	ひな飾り お気に入りを探して 人形 全国で収集 明和・にぎわい美術の里
2月 18日	中日新聞	「斎王群舞雅」や「斎王舞」 明和・いつのみや歴史体験館

日付	発行機関	記事タイトル
2月 19日	中日新聞	斎宮中心部 規模判明へ前進 飛鳥—奈良時代 東区画 東西44メートルと判明 発掘調査 現地説明会 住民ら26人参加
2月 21日	中日新聞	「免想が豈かで天才的な方」松本零士さん死去 明和の西森さんしのぶ
2月 21日	中日新聞(夕刊)	幻の松本零士キャラ メーテル風「斎王」 19年作成 伊勢の大学教授ら 活用に意欲
2月 22日	中日新聞	明和を照らす「めいてる」斎王 幻の松本零士キャラ 皇学館大 千田教授ら企画 活用に意欲
2月 25日	夕刊三重	今年270周年 大淀紙園祭 三世古地区 山車を試し引き 夏風物詩 準備に熱新しい車輪 直径1.1メートル、厚さ2センチ
3月 1日	夕刊三重	明和町「上村のシメナワ」指定 無形民俗文化財 コロナ禍に負けず継続
3月 1日	号外NET	【明和町】今年も3月19日=さいくの日!近鉄の鉄道イベント「鉄道ロゲイニングin明和町」が開催されます
3月 7日	夕刊三重	斎宮跡など文化観光地巡る県のツア、開西園から30人参加
3月 8日	中日新聞	「上村のシメナワ」待ち町文化財に 明和 100年ほど歴史 絶えず続く
3月 9日	中日新聞(夕刊)	織維用大麻 斎宮で栽培へ 三重・明和 神事など活用目指す
3月 10日	中日新聞	斎宮跡で織維用の大麻栽培へ 明和 無著な品種、特産品など活用
3月 10日	中日新聞	伝統工芸「擬革紙」を現代風に 玉城の保存会、松阪で作品展
3月 11日	伊勢新聞	新たな「ポケふた」登場 県庁でお披露目 6市町に設置へ
3月 11日	伊勢新聞	道後康が選んだ鏡? 斎宮歴史博物館でミニ展示 明和町
3月 11日	夕刊三重	「ポケモン」マンホール 明和、大台町に新登場 地域的魅力をデザイン
3月 13日	夕刊三重	第38代斎王に山中さん 6月3日に斎王まつり「堂々と務めたい」
3月 14日	中日新聞	明和・いつのみや歴史体験館 雅楽の楽器「龍笛」学びませんか5月開講、3年ぶり講座生募集
3月 14日	伊勢新聞	斎王役に山中深月さん 明和町 6月に斎王群行を再現
3月 15日	中日新聞	「ポケふた」登場 大台に 明和に ポケモンのマンホールふた「みえ応援」第2弾 来月にかけ設置 松阪地域では初
3月 15日	夕刊三重	明和町 土地活用事業者を公募 JA多気郡 斎宮支店跡地 もおてなし施設など必須
3月 16日	夕刊三重	「奈良時代の斎宮解説へ」18日に発掘成果報告会 斎宮歴博
3月 18日	伊勢新聞	国文化財に県内5件 審議会答申 渋野家住宅主屋など
3月 18日	中日新聞	国の文化審査申「渋野家住宅主屋」や「旧吉津郵便局舎」5件 有形文化財指定へ県内 計317件に
3月 18日	夕刊三重	国の登録有形文化財 明和町斎宮の2件答申 歴史的景観の渋野家、乾家
3月 20日	夕刊三重	ミニ電車やゲームなど 明和町の斎宮跡周辺で こどもわいわいフェス
3月 21日	読売新聞	国登録文化財 新たに5件 文化審査申 明和・乾家住宅門及び扉など
3月 22日	夕刊三重	【すぐお】好きな歴史で役立ちたい第40回斎王まつりの第38代斎王役に選ばれた 山中 深月さん(24)
3月 23日	伊勢新聞	明和町の観光を考えるシンポで講演、パネル討論
3月 23日	伊勢新聞	斎宮跡で麻を栽培 明和町 産学官6団体「伊勢麻振興プロジェクト」文化継承、生産確立へ
3月 23日	中日新聞	斎宮跡で大麻栽培 明和町など 神事や農学研究に
3月 23日	夕刊三重	斎宮跡で大麻栽培、開始 明和町など8団体計面 神事と産業用、来月から

附編。

1. 指定文化財一覧

有=有形文化財、無=無形文化財、民=民俗文化財、記=史跡名勝天然記念物、建=建造物、
 絵=絵画、書=書跡・典籍、彫=彫刻、工=工芸品、文=古文書、考=考古資料、無=無形民
 俗文化財、史=史跡、天=天然記念物

国指定文化財一覧

種別	名称	員数	時代	所有者等	指定年月日
有 彫	木造諸尊仏龕	1基	平安	個人	S38.7.1
有 考	三重県斎宮跡出土品	2661点	飛鳥～平安	三重県	H21.7.10
記 史	水池土器製作遺跡	1	奈良	明和町	S32.7.25
記 史	斎宮跡	1	奈良～平安	明和町ほか	S54.3.27
記 天	斎宮のハナショウブ群落	1		明和町	S11.12.16

県指定文化財一覧

種別	名称	員数	時代	所有者等	指定年月日
有 工	刀 銘 固山宗次作之	1口	江戸	個人	S31.5.2
有 工	短刀 銘 霞林院政盛作	1口	室町	個人	S43.3.18
有 工	六地蔵石燈	1基	室町後期	中町自治会	S62.3.27
有 工	仏通禪師所用法衣並びに伝来什物	一括	鎌倉～江戸	宗教法人安養寺	H29.2.2
有 絵	紙本金地著色伊勢物語図六曲屏風	1双	江戸前期	三重県	H17.3.17
有 絵	紙本着色源氏物語色紙貼文二曲屏風	1双	桃山末・江戸初期	三重県	H17.3.17
有 書	斎宮女御集(正般所叢本)	1冊	鎌倉	三重県	H22.3.11
有 書	斎宮女御集(資経本)	1冊	鎌倉	三重県	H22.3.11
有 文	紙本墨書き元大惠印信 附 紙本墨書き空然印信	25通	鎌倉	安養寺	S33.12.15
有 文	紙本 墨書き安養寺文書	8通	鎌倉～室町	安養寺	S33.12.15
有 文	大淀村二天八王子社神事頭番張	1巻	室町	竹大与杼神社	S62.3.27
有 考	金銅裝頭裡大刀	1口	古墳	明和町教育委員会	H13.3.27
有 考	馬形埴輪(石塚師東古墳群 63号墳出土)	1点	古墳	三重県	H15.3.17
有 考	土偶(羽見井尻遺跡出土)	2点	縄文	三重県	H16.3.17
有 考	雲出島遺跡中世墓出土品	36点	鎌倉	三重県	H17.3.17
有 考	初期須恵器・鉢式系土器(六大A遺跡出土)	107点	古墳	三重県	H18.3.17
有 考	磨製石斧製作関係資料一括(宮山遺跡出土)	121点	弥生	三重県	H19.3.27
有 考	陶質土器(木造赤坂遺跡出土)	1点	古墳	三重県	H21.3.11
有 考	東条1号墳出土品	551点	古墳	三重県	H29.2.2
有 考	天白遺跡出土品	2213点	縄文	三重県	H30.2.16
記 史	坂本古墳群	1	古墳	明和町	H16.1.19

町指定文化財一覧

種別	名称	員数	時代	所有者等	指定年月日
有 建	転輪寺表門	1棟	江戸	転輪寺	S56.10.27
有 建	転輪寺庫裡	1棟	江戸	転輪寺	S56.10.27
有 彫	木造聖観音立像	1幅	平安	費川自治会	S56. 8.10
有 彫	木造胎蔵界大日如來坐像	1幅	平安	費川自治会	S56. 8.10
有 彫	木造阿弥陀如來立像	1幅	鎌倉	納願寺	S56. 9.28
有 彫	木造阿弥陀如來立像	1幅	鎌倉	南谷寺	S56.10.27
有 彫	木造佛形坐像	1幅	江戸	納願寺	S58. 1.25
有 彫	木造阿弥陀如來立像	1幅	室町	円明寺	S58. 1.25
有 彫	木造獅子頭	1個	室町	久安寺	S58. 1.25
有 彫	木造不動明王立像	1幅	平安	西光寺	H26. 3.24
有 彫	木造阿弥陀如來立像	1幅	平安	宗教法人長光寺	R4. 2.25
有 工 銅 鐘		1口	江戸	転輪寺	S56.10.27
有 文	八木戸庄屋文書	1450点余	江戸	明和町	S56.10.27
有 文	佐田村子安地圖米歴	1巻	江戸	明和町	H4. 7.17
有 文	郷中十七ヶ条	1巻	江戸	明和町	H5.12.21
有 文	北畠具教感状	1幅	室町	明和町	H5.12.21
有 考	理状畫形土器	1口	絹文	明和町教育委員会	H8. 9.27
有 絵	淨土三部經曼荼羅	三幅	江戸	宗教法人轉輪寺	H31. 3. 7
無 民	前野のお頭神事	—	江戸	前野自治会	S59. 2.23
無 民	麻生の左義長	—	江戸	麻生自治会	S59. 2.23
無 民	大淀の祇園祭	—	江戸	明和町大淀 三世古・東区・山大淀	S60. 2.18
無 民	算所の祇園祭	—	安土桃山	算所共進社	S60. 2.18
無 民	前野の浅間行事	—	江戸	前野自治会	S60. 2.18
無 民	宇掛桜神社かんこ踊り	—	江戸	有閑中自治会	S60. 2.18
無 民	蓑村虫送り	—		蓑村自治会	H26. 3.24
無 民	佐田西出 天王さんのお社塔	—	江戸	西出自治会	H31. 3. 7
無 民	上村のシメナワ日待ち	—		上村自治会中組	R5.2.27
記 史	鳥居神序跡	1		蓑村区	S58. 1.25
記 史	惇子内親王墓	1		個人	S58. 1.25
記 史	斎王尾野湊御模塙跡	1		明和町	H7. 3.17
記 史	陸軍第七通信隊一二八部隊 防空壕	1	昭和	多気郡東部土地開発公社	H28. 3.23
記 史	小金古墳群 3号墳	1	古墳	明和町	H28. 3.23

2. 各種委員会 当課には、下記の委員会について事務局が置かれている。

・明和町文化財保護審議会

(令和4年4月1日～令和6年3月31日)

氏名	専門分野	氏名	専門分野	氏名	専門分野
倉田 直純 (会長)	考古学	藤田 直信	仏教美術(彫刻)	西村 由美子	郷土史
高橋 敬 (副会長)	建造物	谷戸 佑紀	古文書	渡邊 幸宏	郷土史
	中谷 真弓	民俗		千種 清美	郷土史

・高塚1号墳 専門調査会

倉田 直純	明和町文化財保護審議会 会長	福口 泰己	上村自治会 自治会長
豊島 直博	奈良大学 文学部教授	廣瀬 千足	明和町郷土文化を守る会 副会長
高松 邦文	三重県埋蔵文化財センター 活用支援課		

・明和町歴史的風致維持向上計画協議会 (会長：増沢 徹) (令和4年2月1日～令和6年1月31日)

京都橘大学文学部教授 増沢 徹	明和町文化財保護審議会委員 高橋 敬
三重大学院工学院研究科教授 浅野 駿	国史跡斎宮跡協議会会長 中川 雄二
三重県教育委員会社会教育・文化財保護課課長 天野 長志	(公財)国史跡斎宮跡保存協会代表理事 大和谷 正
三重県環境生活部文化振興課課長 川口 晃	明和町観光協会会長 森下 清
三重県県土整備部都市政策課課長 林 幸喜	斎宮ガイドボランティア会長 田所 秀明
明和町文化財保護審議会会长 倉田 直純	明和町副町長 下村 由美子

・明和町日本遺産活用推進協議会 (会長：明和町副町長) 構成団体名簿

明和町	明和町商工会	明和太鼓保存会	明和町緑のまちづくり推進委員会
斎宮歴史博物館	明和町観光協会	明和音頭保存会	斎王の舞保存会
(公財)国史跡斎宮跡保存協会	斎王まつり実行委員会	斎宮ガイドボランティア	吳竹俱楽部
国史跡斎宮跡協議会	大淀祭典委員会	明和町郷土文化を守る会	

オブザーバー：近畿日本鉄道株式会社、三重交通株式会社、(一社)明和観光商社

・斎宮跡保存活用計画(会長：倉田 直純 副会長：中川 雄二) (令和5年1月20日～令和7年1月19日)

明和町文化財保護審議会会长 倉田 直純	(一社)明和観光商社代表理事 千田 良仁
京都橘大学文学部教授 増沢 徹	三重県教育委員会社会教育・文化財保護課課長 天野 長志
三重大学院工学院研究科教授 浅野 駿	三重県環境生活部文化振興課課長 川口 晃
国史跡斎宮跡協議会会長 中川 雄二	三重県雇用経済部観光局観光資源課課長 酒井 智一
国史跡斎宮跡協議会副会長 北村 純一	斎宮歴史博物館館長 大西 宏明
国史跡斎宮跡協議会副会長 田所 秀明	明和町副町長 下村 由美子
(公財)国史跡斎宮跡保存協会代表理事 大和谷 正	(オブザーバー) 文化庁文化財第二課主任文化財調査官 江谷 啓一
明和町観光協会会長 森下 清	

斎宮跡保存活用計画作業部会

明和町文化財保護審議会 会長	国史跡斎宮跡協議会 副会長	三重県環境生活部文化振興課 事務担当職員
京都橘大学文学部 教授	(公財)国史跡斎宮跡保存協会	三重県雇用経済部観光局観光資源課 課長
三重大学大学院工学研究科 教授	明和町観光協会 会長	斎宮歴史博物館 調査研究課職員
国史跡斎宮跡協議会 会長	(一社)明和観光商社 代表理事	明和町斎宮跡・文化観光課 課長
国史跡斎宮跡協議会 副会長	三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 史跡担当職員	(オブザーバー) 文化庁文化財第二課 主任文化財調査官

3. 事業 (* 主要な事業の経費と概要)

1-1. 史 斎宮跡 史跡等買上げ（直接買上げ）事業（土地公有地化事業）

48,140,428 円（国庫支出金：38,460,000 円、県補助：7,221,000 円）

史跡斎宮跡の保存を図るため、国庫補助および県費の補助金を受けて、5 箕（公募面積 1,955 m²）の公有地化を行った。なお、事業に伴い補助対象外事業として、史跡斎宮跡へ幅広い来訪者が来てもらえるよう、「斎王楽市」を開催した。

1-2. 史 斎宮跡 史跡等買上げ（先行取得償還）事業

平成 30 年度分 26,763,999 円（国庫支出金：21,410,000 円、県補助：4,014,000 円）

令和 3 年度分 425,416 円（国庫支出金：339,000 円、県補助：63,000 円）

史跡斎宮跡の保存を図るため平成 30 年度及び令和 3 年度に土地を先行取得した経費の償還を行った。なお、事業に伴い補助対象外事業として、史跡斎宮跡への来訪者の周遊性を高めるため、関係施設を巡る重ね押しスタンプラーを実施した。

2. 埋蔵文化財発掘調査

・史 町内遺跡 発掘調査等事業 2,187,400 円（国庫支出金：1,000,000 円、県補助：233,000 円）

町内の遺跡地内における個人住宅等の申請内容について緊急に対応するため、国庫補助を受けて調査を実施した。本年度については、史跡斎宮跡内において 2 件、998 m²で発掘調査を行った。

・歴史的風致維持向上計画推進事業に伴う発掘調査 7,794,074 円

(*歴史的風致維持向上計画推進費に含まれる)

・埋蔵文化財緊急発掘調査（一般会計受託事業）2,461,629 円

（露越遺跡整理作業分・黒土遺跡発掘調査分）

・文化財保存活用費（発掘調査分）（一般会計）：1,512,964 円

3. 史跡および施設の管理

・史跡管理事業 50,623,651 円（国庫支出金：1,000,000 円）保存活用費

・体験学習施設維持管理費 51,093,750 円 （県補助：19,357,000 円）

・植栽事業 1,524,530 円

公園管理、いつきのみや歴史体験館などの運営管理、施設管理については公益財団法人斎宮跡保

存協会へ委託し、管理を行った。

4. 歴史的風致維持向上計画推進費 51,626,807 円（国庫支出金 19,359,000 円）

明和町歴史的風致維持向上計画に基づき、国庫補助を受けて事業を実施した。本年度の主な事業としては、前沖溝の幹線排水路改修、竹神社前ポケットパーク用地の買収、戸戸広場整備である

5. 日本遺産魅力発信推進費 3,586,455 円（国庫支出金 1,500,000）

明和町日本遺産活用推進協議会（事務局：斎宮跡・文化観光課）が、文化庁の地域シンボルの整備等補助事業の補助金を受けて事業を実施した。



竹神社に設置した
説明看板

6. 坂本古墳群保存事業 : 567,883 円

歴史的風致維持向上計画事業に基づき公園整備が行われ、当課および地元坂本自治会の協力を得て公園管理を行っている。

7. 斎宮のハナショウブ群落管理費 : 892,622 円

『斎宮のハナショウブ群落保存管理計画』（平成 22 年度策定）に基づき、給水および雑草の除却や周辺の草刈りなどを実施した。管理は当課職員と作業員が行うとともに、東野自治会に一部を委託している。

8. 令和 3 年度補正地域文化財総合活用推進事業（地域の伝統行事のための伝承事業）

16,806,500 円（国庫支出金 : 16,734,000 円）

* 詳細は第 2 章 4 に記載

9. 地域文化財総合活用推進事業 5,135,635 円（国庫支出金 : 4,915,000 円）

* 詳細は第 8 章 1 に記載

<報告書抄録>

ふりがな	めいわちょうぶんかざいねんぽう れいわねんど						
書名	明和町文化財年報 一令和4年度-						
編著者名	明和町斎宮跡・文化観光課						
編集機関	明和町斎宮跡・文化観光課						
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945番地 tel0596-52-7126						
発行年月日	2024年3月10日						
所収遺跡	所在地	市町村	道路番号	北緯	東経	調査期間	調査面積
黒土遺跡 (13次)	明星字黒土1580	442	230	34度 31分 41秒	136度 38分 12秒	2022.4.20 ~ 2022.6.20	2.47
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	生産遺跡	奈良時代、中世	土師器焼成土坑、堅穴建物、土坑、唐	土師器、須恵器			
所収遺跡	所在地	市町村	道路番号	北緯	東経	調査期間	調査面積
北野遺跡 (19次)	貧宮字大頭922番27、923番4	442	228	34度 31分 43秒	136度 37分 32秒	2022.5.19	3
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
			なし	なし			
所収遺跡	所在地	市町村	道路番号	北緯	東経	調査期間	調査面積
露越遺跡 (18次)	竹川字南裏174番5	442	207	34度 32分 05秒	136度 39分 35秒	2022.9.8	3
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
			なし	なし			
所収遺跡	所在地	市町村	道路番号	北緯	東経	調査期間	調査面積
金剛坂遺跡 (22次)	金剛坂字吉垣内1079番3	442	36	34度 32分 04秒	136度 36分 21秒	2023.3.16	4
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	集落	奈良時代	堅穴建物	土師器			

明和町文化財年報

-令和4年度-

発行年：令和6年（2024）3月10日

編集：明和町斎宮跡・文化観光課

発行：三重県多気郡明和町

印刷：光出版印刷株式会社